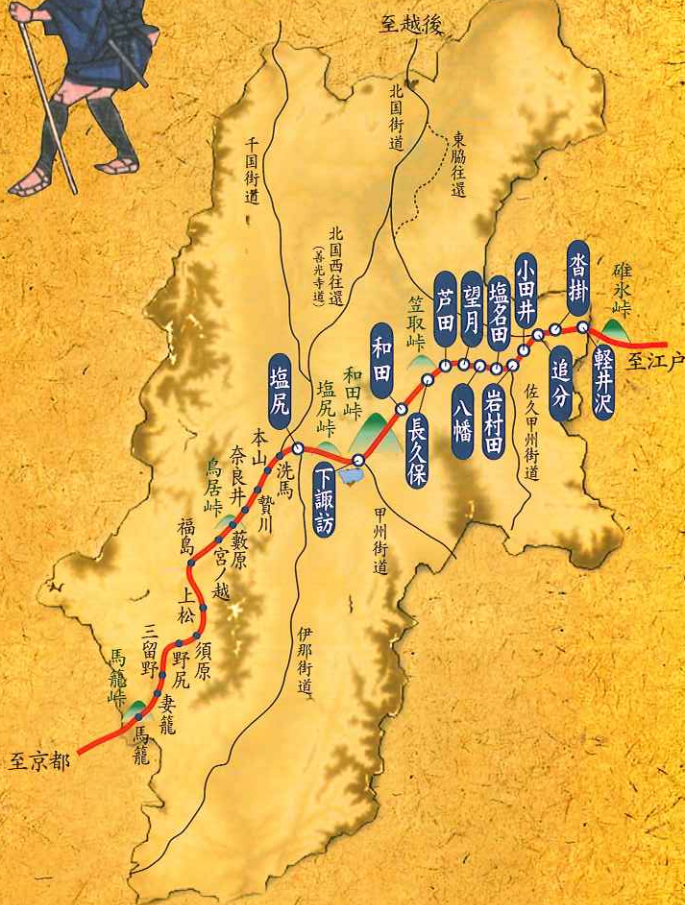


長野県の中山道

地域の皆さんといっしょに、
まちづくり、みちづくりを進めます。



長野県内の中山道沿線自治体では、街道の歴史的遺産などの発掘・保存や文化の継承、それらを生かしたまちづくり・みちづくりを進めています。約400年という時を経て、未来へと受け継がれる大切な地域の文化と歴史を、地域の皆さんといっしょに、活力ある「まち」、魅力ある「みち」へと創造していきます。

長野県内の“ハラハラ”箇所

“ハラハラ箇所”とは、道路交通の安全性の確保が必要な箇所であり、交通事故の危険性が高い箇所です。平成19年3月に、パブリックコメントを通じて、長野県移動性・安全性向上検討委員会が50箇所を抽出しました。“ハラハラ箇所”を通行する際には十分にご注意ください。(※地図中水色で示しています)

【お問い合わせ】

国土交通省関東地方整備局 長野国道事務所

〒380-0902 長野県長野市鶴賀字中堰145

TEL/調査課 026-264-7006

<http://www.ktr.mlit.go.jp/nagano/>

信州の街道探訪 ○ その巻

信濃(軽井沢宿〜塩尻宿)十三宿

中山道

歩いて見つける街道の魅力。歩いてみませんか

軽井沢宿

沓掛宿

追分宿

小田井宿

岩村田宿

塩名田宿

八幡宿

望月宿

芦田宿

長久保宿

和田宿

下諏訪宿

塩尻宿



1 熊野神社
 碓氷峠頂上、上野群馬・信濃(長野)県境に熊野三山が祀られる。本宮の中央が県境、東の新宮は群馬県、西宮の那智宮は長野県。



熊野神社
 野神社の科野木



現在は観光地として賑わう
軽井沢宿 KARUIZAWA
 明治後半外国人宣教師により避暑地として紹介されて以来、観光地や別荘地に変貌した。昔は茶屋で現在は旅館として営業する「つるや」付近に宿場風の建物が並ぶが、かつての面影を残すものは少ない。
 [北陸新幹線軽井沢駅から約1.7km]

知ってなるほど!
銀座が出没?
5 軽井沢銀座
 夏は多くの有名店が出店し観光客でいっぱいになる軽井沢のメインストリート。銀座のような賑わいを見せるためその名がつけられた。



木曾街道六十九次之内 軽井沢/広重画

四口年の時を超え
 「むかし」と「いま」の
 中山道を同時に歩こう

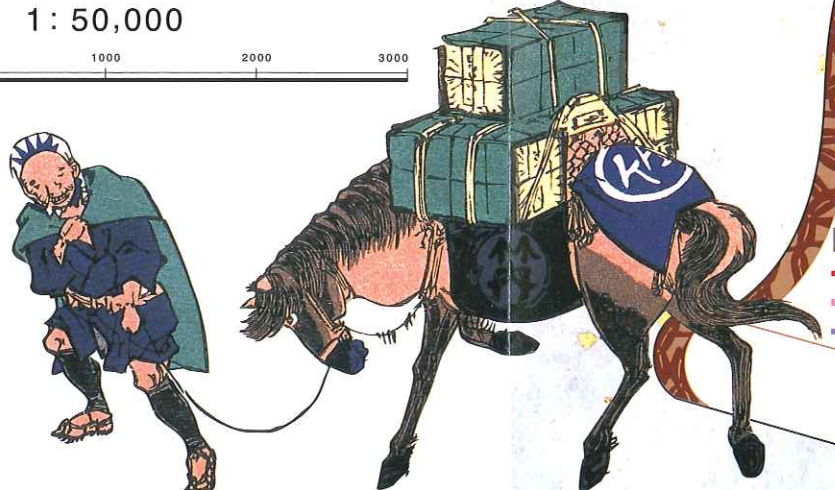
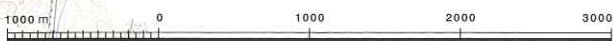
五街道のひとつである中山道は、江戸時代に江戸と京都を結んだ幹線道路。多くの峠や険阻な山道はあつたものの東海道ほど川越えがなく、川留めなどで足止めになることも少なかったため、大名行列や一般の旅人のほかに皇族女性の旅などにも利用されていた。多くの旅人が足跡を残す宿場を自らの足で辿つて、昔の面影と現在の姿を見つめてみませんか。

宿場マップについて
 江戸日本橋を起点に京都に至るまで六十七の宿場がある中山道。このマップでは六十七宿のうち、長野県内の東側を通る軽井沢宿から塩尻宿までの十三宿を周辺に残る名所や史跡とともに紹介します。マップを片手に歩きながら中山道の歴史をお楽しみください。

地図の凡例

- 旧中山道
- 一般国道
- 主要地方道
- 有料道路
- 名所・史跡
- ハラハラ箇所

1: 50,000



地図は中山道沿線の各自治体所有の5万分の1の白図を使用し、近世の中山道を赤色(道は赤の実線。ただし通行不能区間及び比定があいまいな箇所は破線)で表しました。



2 熊野神社の科野木
熊野神社の信濃(長野県)側にあるシナノキは、古くから神社の神木として崇められてきた。県の天然記念物にも指定されている。



3 碓氷峠見晴台
旅人にとって難所であった碓氷峠も今ではヒュースポット。現在も残る旧道を歩けば、霧の中の日の出や夕日が美しい見晴台。



4 つるや旅館
昔は茶屋であったが、明治以降は旅館となった。芥川龍之介や堀辰雄など多くの文人が宿泊したことでも知られている。

追分宿 OIWAKE
北国街道への分岐点として繁栄した。宿場の雰囲気と比較的色濃く残り、



1 熊野神社

2 熊野神社の科野木

3 碓氷峠見晴台

4 つるや旅館

5 軽井沢銀座

6 長倉神社の沓掛時次郎碑

7 沓掛宿本陣

8 浅間神社の芭蕉句碑

長野県 ← 群馬県

長野県 ← 群馬県

街道名物

コケモモ、ブルーベリーなど軽井沢で採れた新鮮な果実を利用したジャムは軽井沢名物のひとつ。専門店も多い。



ジャム

中軽井沢と地名を変えた沓掛宿 KITSUKAKE
昭和31年に駅名が中軽井沢と改められ、沓掛は過去の地名に。今沓掛を名乗るのは長谷川伸の小説の主人公「沓掛時次郎」の碑のみとなった。かつての脇本陣は今でも旅館を経営。本陣には土蔵と井戸が残る。
〔しなの鉄道中軽井沢駅前〕

6 長倉神社の沓掛時次郎碑
天長年間に創建されたといわれる古社。木立の中であり、境内には長谷川伸作の小説の主人公「沓掛時次郎」の碑が建っている。



7 沓掛宿本陣
一見普通の住宅だが裏にある土蔵には「本」の字が刻まれ、古い井戸も残る。小宿のため周囲は草津温泉からも借用したという話も。



8 浅間神社の芭蕉句碑
室町時代に建てられた追分最古の木造建築。広い境内には「ふきとばす石も浅間の野分かな」と詠んだ松尾芭蕉の句碑がある。





12 御代田一里塚
道路の両脇一里ごとに木が植えられ、旅人の里程の目安となっていた一里塚。塚には榎が植えられていることが多く、枝垂桜は珍しい。



木曾街道六十九次之内 追分/英泉画

堀辰雄など多くの文人に愛された場所でもある。宿場の入口近くには「追分郷土館」があり宿場の歴史と文化を見ることができ。[しなの鉄道信濃追分駅から約1km]

女性客に親しまれた姫の宿 小田井宿 OITAI
追分の隣にあったので大名などの宿泊は少なかったが、女性が安心して利用できたため「姫の宿」と呼ばれた。本陣、問屋、旅籠などが現存し、宿場用水や出桁造り縦格子の家も残る風情ある町並み。
[しなの鉄道御代田駅から岩村田行バス小田井上宿]



9 堀辰雄文学記念館
「風立ちぬ」美しい村など軽井沢を舞台にした作品を多く残し、今も旅館として営業を続ける老舗。晩年をこの地で過ごした作家堀辰雄ゆかりの品々や資料を展示。[「風立ちぬ」を執筆した。]

10 脇本陣油屋
「元禄元年に脇本陣として創業し、今も旅館として営業を続ける老舗。晩年をこの地で過ごした作家堀辰雄ゆかりの品々や資料を展示。[「風立ちぬ」を執筆した。]

行ってみよう!

しなの追分 馬子唄道中



江戸時代の衣装をまとった人々が、追分発祥の馬子唄を歌いながら追分宿を歩く仮装行列がメイン。江戸時代にタイムスリップしたような気分になれるこの祭りは年に一回行われる。
●毎年7月下旬
●場所 浅間神社及び追分宿内
●お問合せ/軽井沢町観光経済課 0267-458579

15 相生の松
雌雄二株が結びついたためだといふこと、皇女和宮はここで野点をした。雄雌の松は枯れてしまったが歌碑が残っている。



14 西念寺
岩村田本町の中央に位置し、永禄年間に武田信玄が再興した。歴代城主の菩提寺である。岩村田城主内藤家の墓所がある。



11 追分の分去れ
北国街道と中山道の分岐点分去れが三角形の地形となっており、常夜燈、地蔵、道標など多数の石造群が建っている。

13 小田井宿本陣

当時から建物が現存する本陣。門は簡素だが、本棟には玄關、広間、和宮が立ち寄った上段の間や降嫁普請の刷などが残されている。



16 塩名田宿本陣

川留めに備えて二軒の本陣があった。鬼瓦に「丸山」の文字が刻まれた妻入切妻造の旧本陣・問屋丸山家が保存されている。



19 八幡神社高良社

八幡神社の境内にある高良社は流造(ながれづくり)、こけら葺の構造で五百年前の姿を今に伝えている。国・重要文化財。



17 舟つなぎ石

当時は千曲川に九船の船を浮かべ船の上に板を敷いて人馬を渡していた。現在は舟を繋いでいた集落御馬寄(みまよせ)に昔と穴がある石だけが残されている。変わらぬ姿で静かにたたずむ。



18 大日像



塩名田宿 SHIONADA
本陣が二軒ある河畔の宿場

千曲川河畔にあり、中宿・下宿・河原宿の三つに分かれている。普段は宿泊客が少なかつたが、千曲川が増水し川留めで滞在が延長されるため、本陣が二軒設置されていた。次の八幡宿との距離は中山道最短。
〔佐久平駅から中山道線バス塩名田〕

知ってなるほど!

川留めになると何日もここに滞在

塩名田宿

塩名田宿は千曲川を渡るためにできた宿場。普段の宿泊客

岩村田宿 IWAMURADA
城下町の顔も持つ小さな宿

内藤氏一万六千石の城下町でもあった岩村田宿。旅人は堅苦しい城下町を好まなかつたため、本陣、脇本陣はなく旅籠も少なかつた。しかし、この地方の経済の中心地として栄え、現在も商店街になっている。
〔佐久平駅から小海線岩村田駅より約0.5km〕

23 望月宿本陣 (歴史民俗資料館)

22 大和屋 (真山家)

21 瓜生坂

八幡宿

19 八幡神社高良社

20 八幡宿本陣跡

塩名田宿

16 塩名田宿本陣

17 舟つなぎ石

18 大日像

21 瓜生坂

古代の東山道にあたり、峠の東で祭祀遺跡が発見されている。頂上にはケヤキの大木がありその下に石仏が残されている。



中山道瓜生坂



20 八幡宿本陣跡
皇女和宮の大行列が八幡宿を通行、宿泊した際に残した錦の小物や席札といった貴重な資料が所蔵されている。

八幡宿 YAWATA
八幡神社は高良社が旧本殿
幕末に皇女和宮が十四代将軍徳川家茂へ降嫁の折りに宿泊した。宿の入口には宿名の由来となった高良社を旧本殿とする八幡神社がある。本陣と脇本陣に門と客殿、八幡東交差点には間屋が残っている。
〔佐久平駅から中山道線バス八幡〕

は少ないが、千曲川の増水による川留めで足止めされた旅人が幾日もの滞在を必要とされることが度々あった。千曲川の流れは今とは違って、橋が何度も消失するほどの激流だった。そのため当時千曲川は、徒歩（かち）渡し、舟渡し、橋渡しの三様で渡ったという。



22 大和屋
旅籠と問屋を兼ねていた真山（さなやま）家住宅。天明5年に建築された望月宿最古の建物でもある。重要文化財。



23 望月宿本陣
本陣跡に門が再建され、本陣の敷地の大半が歴史民俗資料館となった。望月町と宿場の歴史を物語る資料などを展示する。



24 茂田井間の宿
宿場と宿場の間にあった村・茂田井には昔の家屋がそのまま残る。白壁の土蔵が続く坂道に用水が流れる街道で酒処でもある。



往時を偲ばせる建物が残る
望月宿 MOCHIZUKI
8月の満月の日、朝廷へ名馬を納めたことから望月の名がついた。本陣跡には歴史民俗資料館が建ち、かつての面影を残す脇本陣の隣には、望月最古の建物である旅籠兼問屋も残っている。
〔佐久平駅から望月方面行バス望月〕

24 茂田井間の宿

25 茂田井の双体道祖神

25 茂田井の双体道祖神
茂田井にある諏訪神社の境内に六基の相對道祖神と二基の文字道祖神が建ち並ぶ。いずれも江戸時代後期に造られたものである。



ハラハラ箇所 左記水色の範囲が交通事故の危険性が高い“ハラハラ”箇所です。通行の際は十分にご注意ください。

30 長久保宿本陣
表門と御殿が残る本陣跡の石合家は1600年代の建築と推され、中山道における本陣最古の建物。個人宅のため見学不可。



29 松尾神社
諏訪の宮大工である立川流三代富重が造った松尾神社。木の鳥居近くには酒の神を祀る社が建っている。



26 芦田宿本陣

27 旧旅籠つちや

28 笠取峠松並木

芦田宿

中山道随一の松並木が続く
芦田宿 ASHIDA
中山道が開かれた頃、小諸藩により芦田宿から笠取峠の頂上まで赤松が植えられ、現在も松並木が1kmほど残る。本陣、庄屋、牛宿などがあり、かつて旅籠だった「つちや」は旅館として健在している。
〔佐久平駅から芦田行バス芦田〕

32 三千僧接待碑

31 釜鳴屋

長久保宿

29 松尾神社

30 長久保宿本陣

長久保宿歴史資料館
一福処濟屋

旅籠の多いし字形の宿
長久保宿 NAGAKUBO
堅町と横町がし字型に隣接した宿場。表門と御殿が残る本陣跡の石合家があり、御殿は中山道最古の建物といわれている。近くには本卯建を残す釜鳴屋の跡も。旅籠は43軒と長野県の中山道で二番目に多い。
〔下田駅から和田村行バス長久保〕

26 芦田宿本陣
切妻を鯉（こい）やちと懸魚（けいぎき）で飾った本瓦葺の屋根に唐破風を加えた豪壮な造り。往時の面影を留める本陣である。



27 旧旅籠つちや
江戸時代に旅籠であったここは、金丸土屋旅館として宿場内唯一の宿泊施設として今も健在。出梁造りなど多くの特徴がある。

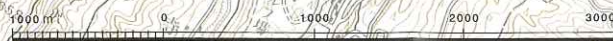


28 笠取峠松並木
江戸時代初期小諸藩により753本の赤松が植えられた。現在本数は減ったが約1kmの並木道が残り、かつての街道を偲ばせる。



木曾街道六十九次之内 和田/広重画

1:50,000



31 釜鳴屋
100坪の広さを誇る江戸初期の商家。江戸初期から昭和初期まで造り酒屋であった。格子戸で主屋の屋根に卯建を残している。





33 和田八幡宮

天徳3年、国主であった源満仲が京都の岩清水八幡宮を基準に造営。茅葺屋根の本殿の前に土俵があり相撲大会が行われる。



34 歴史の道資料館かわちや

出桁造り出格子の二階建て、江戸末期の建築様式で建てられた旅籠「河内屋」を復元し、歴史の道資料館として公開。



36 接待茶屋

和田宿

街道最大の難所がある
和田宿 WADA
中山道最大の難所和田峠の手前にあり、参勤交代の大名も必ず宿泊した。この地一帯は貴重な歴史遺産を多く残し、保存修復にも積極的な村であるため、本陣、脇本陣、庄屋、旅籠などが旧態を残している。
〔上田駅から和田村行バス上和田〕

街道名物



力餅

峠越えのエネルギー源

和田峠の東西には力餅を食べさせる茶屋が何軒もあった。大福餅に似た餅で、現在も食べさせてくれるお店が残る。

37 和田峠

標高1600m、中山道最大の難所とされた和田峠。峠の頂上には御嶽山権現碑や馬頭観音碑、賽の河原地蔵が建っている。



38 接待茶屋

旅人には粥、馬牛には麦を施行したところ。江戸の綿問屋が旅人の難儀を救おうと千両を献上し、その利息で運営した。



32 三千僧接待碑

里人が遍歴で訪れた僧侶を接待した記念碑。碑文が作られた当時は二千僧であったが、後に三千僧に書き換えられたとの説明が。



35 和田宿本陣
 皇女和宮の降嫁時に幕府の助成金で再建された。その後解体修復し居室棟を公開。客殿と門は丸子町に移され現存する。



38 万治の石仏
 彫刻が施された自然石の上に仏頭が乗る石仏。その容貌から謎の石仏とされた。この石仏に感嘆した岡本太郎氏の碑も残る。



39 下諏訪宿本陣
 岩波本家と分家に二分される。岩波家には中山道随一の庭園が。皇女和宮が宿泊した上段の間は分家にそのまま残っている。



何度かビーンズラインと交差して旧道がある。

中山道で唯一の温泉地
下諏訪宿 SHIMOSUWA
 甲州街道の終点にあり中山道で唯一温泉が湧き、諏訪大社の総本社が鎮座する門前町であったことから非常に栄えた宿。本陣、旅籠、茶屋などが保存公開され、温泉街には旅籠の風情を残す旅館が並ぶ。
 [中央本線下諏訪駅から約0.8km]



37 和田峠
 東餅屋
 文字道祖神
 西餅屋
 一里塚跡



木落し坂
 ※下社に立てる偉の大木に氏子が乗り、急斜面を滑り落ちず。

下諏訪宿
38 万治の石仏
 諏訪大社下社春宮
39 下諏訪宿本陣
 中山道と甲州街道の合流点
 諏訪大社下社秋宮
 甲州街道

7年1度(寅・申の年)行われる諏訪大社の御柱祭。上社本宮(諏訪市・前宮(茅野市)・下社秋宮・春宮)ともに下諏訪町の4宮それぞれに宝殿の式年造営と4本の巨木の曳き建てが行われる個性的な大祭。「木落し」「川越」「里曳き」「建て御柱」と見どころが多い。

《御柱祭(平成22年)》
 平成22年4月1日(休)〜6月16日(火)
 ●行事日程／御柱伐採(上社)3月11日(休)・下社)5月3日(例)■山出し(上社)4月2日(例)・4日(例)・下社)4月9日(例)・11日(例)■里曳き(上社)5月2日(例)・4日(例)・下社)5月8日(出)・10日(例)

●場所／長野県諏訪市・茅野市・下諏訪町
 ●お問合せ／諏訪市観光協会
 ☎0266(52)2111
 茅野市商業観光課
 ☎0266(72)2101
 下諏訪町産業観光課
 ☎0266(27)1111

行ってみよう!

御柱祭
 (おんはしらまつり)

塩尻宿 SHIOIRI

旅籠数は県内中山道で最多
伊那や松本へ通じる街道の分岐点にあり交通の要地だった。明治期の火災で本陣、脇本陣などは焼失し「旅籠いってふ屋」(国重文)だけが残った。現在は国道のため大型車の往来が多く宿場の景観は少ない。
〔中央本線塩尻駅から御野立東山行バス塩尻中町〕



40 塩尻峠展望台
塩尻峠には展望台が設けられ、諏訪側からは諏訪湖と八ヶ岳が塩尻側からは御岳や乗鞍、穂高の山々を望むことができる。



41 塩尻宿本陣跡
造酒屋を兼ねていたため酒造場と酒蔵があった。明治15年の火災で最大規模であった本陣は焼失。現在は碑だけが残る。



木曾街道六十九次之内 下諏訪/広重画



42 脇本陣庭園
脇本陣には枯山水庭園とそれに隣接して土蔵、稲荷が残っている。庭石に天保10年の銘があり、風情を感じさせる庭園である。



43 堀内家住宅(国重文)
妻入りの本棟造りで、江戸時代中期に建てられた民家。棟端の飾りはカラスオドシとも呼ばれる松本平特有のもの。

ハラハラ箇所 左記水色の範囲が交通事故の危険性が高い「ハラハラ」箇所です。通行の際は十分にご注意ください。